

学会誌投稿における二重投稿に対する注意喚起について

Notes on Research Ethics to Journal Contributors

学会誌編集委員長/研究部副代表理事 大泉義一（早稲田大学）

日頃より本学会の活動にご理解をいただき誠にありがとうございます。

また、本学会誌への積極的な投稿をいただき、感謝申し上げます。

この度、美術科教育学会、日本美術教育学会、大学美術教育学会の3学会より、以下の通り、学会誌投稿における二重投稿に対して、共同で注意喚起を行うこととしましたので、皆様のご理解のほどよろしくお願いいたします。

美術科教育学会、日本美術教育学会、大学美術教育学会の3学会は、長らく、同年度内の投稿論文について連携し、二重投稿などの研究倫理違反を未然に防ぎ、投稿者にとっての不利益が生じないように配慮していることは周知のとおりです。しかしながら、誠に遺憾なことに、2022年度の論文投稿において二重投稿の疑義が発生し、対処しなければならない事態が発生しました。

二重投稿を行わないことは、投稿者の研究倫理遵守事項です。仮に、同じ内容を含む投稿論文が複数学会誌に掲載された場合、不利益を被るのは投稿者自身であり、たとえ掲載判断をしたとしても、それは学会の落ち度ではありません。昇任や採用における資格審査等において二重投稿が発覚し、研究倫理違反に該当すると認められた場合は、内外で何らかの対処がなされ、研究者としての立場が問われることとなります。

同じ文章や内容（一部を含む）を、複数の学会誌等に投稿した場合、その時点で二重投稿になる可能性があります。また、投稿した論文が公刊される前に、それが採択されることを前提とした論文を別の学会等に投稿してはいけません。採択、不採択は関係ありません。さらに、自ら執筆し、以前に公刊された論文等であっても、それを生かす場合は、必ず引用の手続きを踏まなければなりません。

今回、3学会において、査読者を含め多くの学会員の、本来必要のない労が生み出され、多大なる時間が浪費されてしまうことにもなりました。美術教育界全体の信用醸成のためにも、今後一切の疑義が生じないように留意ください。

なお、『投稿案内』に示されている通り、本学会では、「投稿論文の関連論文、関連著作リスト（投稿者自身の先行研究、関連研究）」を投稿時に提出いただくことになっています。本学会誌への投稿論文と他学会誌への投稿論文が継続研究となっている場合を想定し、＜本学会誌投稿論文内容と他学会誌投稿論文内容との差異の報告＞、本学会誌投稿論文に関わる＜既発表の論文や著作のリスト＞を作成いただくこととなります。査読者は、この「報告やリスト」をもとに査読を行い、二重投稿に該当するか、研究倫理が守られているか否かを判定します。関連論文や著作がない場合には、「関連論文・著作無し」として提出下さい。

また、これとともに投稿者は、事前に指導教員や本学会誌論文について経験豊富な学会員に相談いただき、二重投稿事案に抵触しないように十分に留意して投稿いただきますようお願いいたします。

下記サイトも、ぜひご覧ください。

* 日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会「科学の健全な発展のために：誠実な科学者の心得」P. 3 参照

<https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf>